

平成 25 年度 3 月若桜町議会定例会

(前住) 1 番前住孝行です。寒かった冬もひと段落いたしました。春のような日と寒い日が 1 日おきに変わり、体調管理の難しい日が続いています。インターネットで傍聴のかたがたありがとうございます。3 月 2 日には総合型地域スポーツクラブ若桜クラブが設立し、健康体力づくり、さらに生きがいづくりまでつなげられる組織として期待されます。その 2 日後に引退を表明された宇佐美里香さんの世界一の空手の型を見せていただき、本物の素晴らしさを実感しました。しかし、会費が伴い、会員の確保が難しいところですが、趣旨を十分理解してもらい自分の健康は勿論、皆で皆の健康づくりを推進し、いつまでも「若さ」を維持できるようにしていただけたらと思います。運動する人、見る人、支える人とさまざまな立場でスポーツを推進しないといけませんが、ここにおられる皆さんがたも、是非さまざまな立場で健康づくりに参画していただき、盛り上げていただけたらと思います。

それでは通告させてもらっています 3 点について質問させていただきます。

氷ノ山関連の施設整備について

1 つ目、氷ノ山関連の施設整備についてです。新雪の積もった日にリフトに乗って辺りを見回すと水墨画のようなとても綺麗な光景が見られます。第 2 リフトに乗って少しして周りを見回すとユースホステルが目立ちます。こうした眠っている施設が気になってきました。また、老朽化している施設についても今後どのようにされるつもりなのか、長期、中期、短期的な計画のどのあたりに位置付けられているのか、お訊ねします。

(岡本議長) 答弁を求めます。小林町長。

(小林町長) はい。氷ノ山の関連の施設でユースホステルや管理センターなど眠っている施設について今後どのような計画をしているかということでございますけども、まずユースホステルは昭和 46 年に建築されまして、ユースホステル協会から町に譲渡されたものですが、築 40 年以上も経過しておりますし、かなり危険な状態でもありますので、取り壊しの方法を考えています。また、管理センターは氷ノ山を利用していただく学生などのレクリエーション活動において、雨天の場合の場所としての活用であったり、一部は倉庫的な役割として活用されていますので、今後しばらくの間は今まで通りに維持していきたいと考えておるところでございます。なお、ユースホステルについては危険性もありますので、可能な限り早い段階で検討

していきたいと考えておるところでございまして、昨年も明け渡しをということで、私の方も何回もお願いしているところでもございますけれども、なんとかいい家が見つかりましたらというお話を聞いて、今探している、そういうこともあったりしまして、早い機会にそういう問題、できればやってみたいという具合に思っているところではあります。

(岡本議長) 前住孝行議員。

(前住議員) はい。住んでおられる状況っていうのがあるようですが、以前にもちょっと言わせてもらったんですけど、どうしてもユースホステルの字が残ったままでなんかすごい、あれがなければちょっとなんとも言われないかなとも思ったりするんですけど、あれがあるのでちょっと気になるかなというふうに思いましたので、何か早く出来ることであれが取れたらなと思ったりしているところではあります。第9次総合計画の中にも、「4、魅力あふれる町づくりの(6)観光の振興」というところの重要施策の中の6番目ですか、四季を通じて氷ノ山の自然を活用した事業を展開し、入り込み客の増加を図ります」というふうに書いてあるんですけど、ほんとに具体的なことというのが書いてないのが現状でして、氷ノ山の今後の方向性が見えれば、新規事業者が現れることもあったり、現事業者も新たなことも考えやすかったりするんじゃないかなというふうに思いますので、またそういった見やすいビジョンなんかも示していただけたらと思って質問をさせてもらっています。

次に入ります。今年初めて中国高校スキー大会と中国中学スキー大会が合同で行われ、その記念すべき開催場所を氷ノ山で開催されました。地元関係者としてとてもうれしいことだと思います。最終日に若桜の特産品を売るようなブースなども設置したらいいのになあとあとで思った次第です。このような大会ですが、運営する上で何点か改善点が見受けられたようです。具体的に申しますとアルペンの方ではタイム計測をするための、スタートとゴールをつなぐ線が、あるんですけどそれを強化するのが必要。また、クロスカントリーの方ではコースの幅、スタート広場の電源、待機場所の整備等々、選手役員にとって良い環境とはいえない中で大会を開催されています。受け入れる若桜町としてこういった状況についての所見を伺います。

(岡本議長) 答弁を求めます。小林町長。

(小林町長) はい。まず氷ノ山のスキー場での大会開催につきましては大変喜ばしいことだと思っております。やはり大会を沢山いたしますと皆さんが最低2泊とか、宿泊が出てまいるものでございまして、やっぱり大きな大会をもつてくるのが非常に私達も重要視してお

りますし、支援をさしてもらっておるような次第でございます。氷ノ山樹氷スノーピアコースは全日本スキー連盟の公認コースでもありますし、関係者の皆さまには大会運営や誘致活動などご尽力をいただいております。また、若桜の特産品販売ブースなどにつきましても、若桜町を盛り上げる取組みとして商工会や観光協会などにも話をしてみたいという具合に思っております。さて、大会運営上の改善点であるところのご指摘ですが、タイム測定にかかる線の整備についてですが、リフト整備とは直接的には関わりが薄いものではありませんが、選手に良い環境作りのためにも老朽化している計測用のケーブルについての点検、修繕について検討はさせていただきたいと思っておりますし、またクロスカントリーに伴う整備についてですが、現在は「響の森」「キャンプ場」付近で行っていただいていると認識していますが、コース幅の問題、待機場所の問題、また測定用機器の新たな更新が必要との話も耳にしております。

氷ノ山はアルペンB級の認定をいただいておりますが、クロスカントリーについては議員ご指摘の通り、必ずしも適切な場所ではないと思っております。コースの整備には十分な検討が必要ではないかというふうに考えているところでございます。何と云っても私も皆さんがたの情報をお聞きしたいということもございまして、業者組合の方にもお願いしているところでございまして、何とか年に1回ぐらいは町長を囲んで、こういう問題点があるというようなお話をやっぱり聞きたいし、私の方も言うことも言わしていただきたいというようなことがあるんですけど、まずはそれに至っておりません。非常に残念だと思っております。今度そういう機会を本当にどんどんどんどん作っていただきたいなという具合に思っております。今後、関係者の皆さんとは気軽に話し合える場所をもったら良いと思っておりますし、前住議員にも一緒になって支援をしてほしいという具合に思っているところでございます。

(岡本議長) 前住孝行議員。

(前住議員) はい。本当に情報を聞きたいということで、本当にそうやって進めていただけたらと思います。僕自身が今、情報として持っているところで申しますと、江府町の鏡ヶ成というところがあるんですけど、そのスキー場でクロスカントリーの練習ができる場所があるんですが、そこには休憩施設やレストハウスというのが近くにあって暖を取ることができます。大山の方は体育館が近くにあります。今年か、新たに何か、暖気が上に上がらないように、何かビニールシートを張って、なるべく温かいのを維持できるようにしてあるそうです。それで、そういった、いろいろな大会に出てそういったところを見てきている選手たちにも比べられてしまうのかなというふうに思った

りしているんですけど、できることとしてパツと思ったのが、旧管理センターなんですけど、あそこはちょっとトイレが使いにくいかもしれないかもしれませんが、そこでストーブをちょっと焚いてもらえば暖は取れるかなというふうに思ったりしています。今、現状としては広場にテントを張ってというような状況なので、すぐできることとしたらそんなことができるのかなというふうに思っています。

それと、あそこのテニスコートの辺を中心にクロスカントリーのスタート・ゴールをされているんですけど、あそこの倉庫の屋根が折れていて、ちょっと何か見にくいとか、あまりいい感じがしない状況になっています。中に入らせてもらったら基礎とか、鉄筋なので屋根を替えたら、替えるとか、その折れているのをなんとかしてもらえたらいいのになんていうふうに思っているところなんです。それと、クロスカントリーのコース幅についてなんですけど、関係者のかたに、「お前がクロスカントリーのコースにもなるような作業道の設計をして、作業道を入れるようにせえ、15%の勾配だぞ」って言われています。なかなか難しい宿題なので、僕が合格点を取れるかどうか分らないんですけど、勉強しないといけないなというふうに思っています。以前、一般質問の方で遊歩道を整備してはというふうな質問をさせてもらったんですけど、実際には、このクロスカントリーのコースにもならんかなというふうに思ったことがあっての、意味も含んでいました。

本当にそういったおもてなしの精神というのを少しずつにでも形にしてもらっていけば選手も納得してくれると思います。来年は大山の方で合同のこの大会をされるようですが、なかなか受け入れられるスキー場がないようです。それで、再来年にはまた氷ノ山にというような可能性もあると思いますので、それまでに少しでも形になればというふうに思っているところです。

それでは3番目の質問に入りたいと思います。スキー場までのアクセスについてです。国道482号線の茗荷谷渕見バイパスが出来て、たくさんのかたがあそこの道を通ってスキーに来られている状況です。開通についてはもう大歓迎でしたが、どうしても冬場のことが以前から心配でした。それで、トンネル視察をさせてもらったときも融雪対策についてはどうかというふうに県のかたに質問をしてきたところです。それで、やっぱりこの1シーズンを終え、終わりに近いんですけど、やはり上がる途中、私自身も事故現場を実際に見ました。また、何件かそういった事故があったというふうに聞いていますし、この質問をしようとして以前から考えておったんですけど、まさか自分の親もこの事故に関わるとは思いませんでした、大事には至らなかったのが良かったんですけど、今後も路面凍結などの安全面が危惧されますが、開通からの事故等の状況、また、スリップ注意の

標識や融雪装置等の対策が必要だと考えますが、どのように県へ要望されようとしているのかお訊ねします。

(岡本議長) 答弁を求めます。小林町長。

(小林町長) はい。このバイパスの交通問題につきましては、私たちが開通前から県の方には厳しく言っております。県の方も、再々、財政課の方と協議をしながら、どんな施設をとということだったんですけども、1年様子を見ようということはあるようでございますけども、私はとにかく事故があったら困ると、死亡事故でもあったら困るで、という話も厳しく県の方にも言っておるような次第でございます、11月23日に開通してからの茗荷谷のバイパスの事故の状況につきましては、郡家署に確認したところ、開通から昨年末までは物損、人身事故は発生しておらず、今年に入りましてから2月末までに4件の物損事故が発生しているというように聞いております。事故原因につきましては、当事者からの聴き取りによると、スピードの出し過ぎや路面の凍結などが原因のようでございます。こうした結果による事故が発生していることは道路管理者であります八頭県土整備局も十分承知しておられまして、瀏見から茗荷谷トンネルまでの間には注意喚起の看板を設置していただきました。

また、瀏見方面から茗荷谷トンネルを抜けて茗荷谷集落までの下り車線につきましては注意喚起の看板を設置していただくようにしておりますが、それまでの間は応急的な立て看板を立てていただいております。また、看板が不足しているのではないかといったご意見もスキー客からはあるようございますので、今後、県と合同による現地調査も行いたいと考えておりますし、融雪設備につきましては費用の問題や水確保の問題などの課題もありますので、県と十分協議をしてまいりたいと思っております。町といたしましては、先程申し上げた看板の設置や運転者に対して安全運転を呼びかけることにより事故の防止に努めてまいりたいと思っておりますけども、まず沿線の皆さんのお話をちょっと聞いてみますと、やっぱり非常に3時から5時ごろの間に、すごいスピードで帰られるという話を聞いておりました、私もある土曜日の夕方に氷ノ山に上がったんですけども、上がる方も気をつけて上がらないといけんぐらいスピードを出して、早く帰りたいというんですかねやっぱり、あたりいたしまして、やっぱりスピードというのは本当に気をつけてもらわないといけんなということをつくづく感じておるような次第でもございます。

(岡本議長) 前住孝行議員。

(前住議員) はい。本当にちょうどこの通告をする前に、2月26日ですか、ちょうど県政の要望する会というのに出させてもらいまして、そのことを僕も発言させてもらいました。そのとき、具体策というのは

言いませんでしたけど、融雪対策でお金をかけてもいいのなら大山みたいに熱線を入れて溶かす道路、安く維持していくんだったら水を流すのがいいのかなと思ったりしますが、先程、水の量とかもあると思います。それでもう1つ思ったのが、上りをバイパスで上って行って、下りは旧道、水が流れていますので、に分ける、本当に大雪のときはそういったことも考えてもいいのかなと思ったりしています。それで、北陸道とか東北道などを今年もちょっと通らせてもらったんですけど、やっぱりトンネルの入り口のところに凍結注意みたいな目立つ表示、光るような表示がされていまして、やっぱり先程町長も言われたようにドライバーへの注意喚起というの必要なのかなというふうに思ったりしています。本当、そういったソフト面やハード面での対応、対策の要望をまた期待したいというふうに思っております。本当に先程も町長も言われましたけど、やっぱり事故が起こっている現状は変わらないので、やっぱりこれは本当に来シーズンまでには適切な対応をしていただけたらというふうに思っています。

子育て支援の周知・広報について

それでは大きな2番目の子育て支援について質問をさせていただきます。若桜町は、本当、県内の中でも子育て支援を手厚くしていただいているということは、本当、私、当事者でありますので、とても実感させていただいています。サッと思い出すだけでも給食費の3分の1補助、若桜学園児童生徒リフト代の1日半額助成、入学祝金等あります。しかし、それでも若桜を離れようとされているかたがあるのですが、近隣の市町村と比べて何がどれだけ優遇されているのかというのが分かりにくいからじゃないかなというふうに思っています。他町と比べてどれぐらい支援されているのかを町内外にPRして町内から出ないようにする。また、町外から来てもらうようなことができたというふうに思いますが、所見を伺います。

(岡本議長) 答弁を求めます。小林町長。

(小林町長) はい。議員が仰せのとおり若桜町は県内でも子育て支援策が充実している町であると私も思っております。小児インフルエンザ接種の無料化、5歳児の集団健診など乳幼児健診の充実、子育て短期支援制度、小学校や中学校入学時の祝金、高校生への通学支援、学校休業期間中の温水プール利用の無料化、氷ノ山スキー場リフトの半額助成、給食費の3分の1助成、学力向上支援、要保護・準要保護児童生徒への支援、奨学支援制度などがあります。また、学校においては特別教育支援員の配置、心の相談員の配置な

ど人的支援の充実にも努めております。しかしながら、町民の皆さんや保護者の皆さまに一覧して子育て支援が一目で分かるようなものは作成しておりませんので、今後は具体的に支援内容が分かるものを早急に作成し、町民の皆さんや保護者の皆さまにもご提示していくことが必要だということを感じております。また、町が行っている支援や事業が分かるような資料の作成を行うと同時に、町外に住む子育て世帯へもホームページ等を使って発信していきたいと思っています。若桜町の子育て支援策や子育て環境を知ってもらうことによって、若桜町で子育てしたいと感じていただけるきっかけになり、定住につながればと思っておりますところでもございます。

(岡本議長) 前住孝行議員。

(前住議員) はい。本当にたくさんの子育て支援策があって本当にありがたいんですが、本当に、次の質問に入らせてもらうんですけど、さらに、当初予算の方で手厚くしていただく構想があるようですので、PRを兼ねてお聞かせ願えたらと思います。

(岡本議長) 答弁を求めます。小林町長。

(小林町長) はい。子育て支援につきましては先程申し上げたとおり、他町に比べてかなり充実したものと考えていますが、今後も未熟児養育医療の実施や乳幼児を対象としたお祝い制度の創出、給食費助成の拡充、これは3分の1を2分の1とすることに新年度予算をこの今議会に提案しておりますし、高校生の通学支援、これまでは特定のかただけだったんですけど、今度は100人全員を対象にということも、7,000円ということまで広げさせていただきました。いろいろと学校におきましては、また、特色ある学校教育というようなことにも、また支援策も出しておるところでございまして、私はやっぱり町民の皆さんがどこに出ても若桜の支援はすごいというところを、これは、私は1つの大きなまちづくりという具合に考えておるところでございまして、こういう格好で若い人がどんどん元気な子育て支援をしていただきたいという具合に思っております。ストレートに言って、なかなか定住にはつながらないかも分かりませんが、私は若桜に住んでおって、しっかり子育てができるし、いい町だなあ、誇りが持てるなあ、そんな気持ちを持っていただけたら非常にうれしいなあという具合に思っておりますところでもございます。

(岡本議長) 前住孝行議員。

(前住議員) はい。本当に出られたかたに、「あー、くそ、しまった」と思わせるような本当政策を、これからも引き続きやっていただけたらと本当に思っています。本当に生まれてくる赤ちゃんが少なくなっているのです、本当に他町に先駆けて、どんどん子育て支援を充実していただけたらと思っています。

若桜学園の教育について

では、大きい3番の若桜学園の教育について質問させていただきます。1つ目ですが、昨今騒がれているいじめ、体罰について、若桜学園ではどのような状況なのかをお訊ねします。

(岡本議長) 答弁を求めます。高木教育長。

(高木教育長) はい。大津市のいじめによる中学生の自殺問題が取り沙汰されて以来、全国的にも、議員さんおっしゃいますようにいじめについてとか、体罰についての議論が湧き上がっています。そういう中でも大阪市の公立高等学校で、部活活動の顧問の教師の体罰がもとで自ら命を絶ってしまったという筆舌に耐えない、本当に痛みしい出来事が起きました。日本中で今、教育に関する問題が毎日のように報道で取り上げられています。このような中、町民の皆さんにおかれましても、若桜町の子どもたちは大丈夫なのかなという心配が当然されることだと思っております。まず、いじめにつきましてですけれども、小さなからかいや、ふざけとか、ちょっかいを出すとかいうようなことは起こっているようではありますけれども、悪質ないじめと断定できるような事象の報告は受けておりません。教育委員会といたしましても、いじめの防止、そして何よりも早期対応、未然防止ということが重要だと考えております。若桜学園との連携を密にしていますけれども、教職員がいじめを察知した場合、または保護者からの相談や第三者からの問い合わせがあった場合にも、教育委員会に報告するようということをお願いしております。単純なふざけ合いからがエスカレートしていじめに発展することも考えられますので、細心の注意を払って子どもたちを指導するように、教育委員会としても指示を出していくところであります。

次に体罰についてですけれども、近年、町内の学校現場で体罰があったという報告や情報は、いじめと同様教育委員会には届いておりません。学校からも今のところ報告はありませんが、今、報道されていますので新聞でもご存じだとは思いますが、現在、文部科学省の指示を受けて、改めて平成24年4月に遡って、体罰の調査が全国で行われております。若桜学園でも現在同じように調査中でありまして、子どもと保護者全員を対象に実施しているところです。今月下旬には、その結果が分かってくるだろうと思っておりますけれども、調査を進めていく中で、体罰とは言えなくても、保護者や子どもたちが納得いかない教職員の言動が明らかになった場合、その事案を重く受け止めて、誠意を持って対応するように学園には指導はしております。調査中であっても家庭、保護者と子どもとの聞き取りによりながら調査を進めてまいると、対応していくというふ

うにしております。

(岡本議長) 前住孝行議員。

(前住議長) はい。いじめについては、不登校との関係も出てくるのではないかなと思いますが、今のところそういった悪質ないじめの報告は受けていないということです。それで、いじめってというのは本当にありませんと、こう保護者としては言いきってほしいんですが、私の前職が教員ただだけに、なかなか言いきるのは難しいんじゃないかなというふうに思っているところです。とにかく見えるところではそういったことは注意できるんですが、見えにくくなっているっていうのが全国的に現状ですので、私たち家族はもちろんですけど、先生、地域のかたがそういったいじめに対してのアンテナを高くできるような環境整備に力を入れていってほしいなというふうに思っています。

また、体罰については、先程教育長の方も言われましたけど、この通告の用紙を出す、まだ2月26日だったんですけど、アンケートを子どもが持って帰ってきました。それで、本当に今月下旬に結果が出るということですけど、多分大丈夫だとは思いますが、どのようになるのかなというふうに思っています。それで、これも教員と児童生徒の信頼関係作りが大事になるのかなというふうに思っています。それで、学園の方で、日本青少年育成協会の小山英樹さんのコーチングという講演会を2回、僕は2回聞かせてもらったので、またそういったコーチングの精神で子どもにも、大人同士でも、どの場でもそういったコーチングの精神で当たれるようにしていけないといけないなあと、自分にも言い聞かせる意味で発言しておきたいなというふうに思います。

それでは、次の2つ目の質問に入らせていただきます。若桜学園開校1年を迎えようとしています。開校までさまざまな調整等々で、教育委員会はもちろん、先生がたには特別な業務等があったことを察します。その上で申し上げるんですが、特色ある教育というのが各学校の看板になってきています。八頭町の隼小学校では水泳、智頭町の旧山郷小学校なんですけど、では英語などと、多分野に渡って各校が特色ある教育をされています。若桜学園の特色ある教育についてお訊ねします。

(岡本議長) 答弁を求めます。高木教育長。

(高木教育長) 今年になってから何回か、ずっとこう若桜学園の開校、開校ということ、4月に開校しましたということは何度となく話させていく機会をいただきました。4月に開校して早くも1年を経とうとしています。若桜町教育委員会では最初の3年間を創造期、そして、あとの2年間を充実期として捉えて、現段階は若桜学園にとって重要なスタート時期、創造期の2年目を今度は25年に迎えます。5年

間をかけて、長いスパンで若桜学園を大きくしていこうというふう
に考えているところです。1年目、今、終わっているところですの
で歴史はまだ浅い若桜学園ですけども、県内の教育関係者が若桜町
と聞けば、小中一貫校だということを連想されるようになってきて
います。一口に学校の特色と言いましても、いろいろな捉え方があ
ると思います。その学校の特色というのは、長い歴史を積み上げて、
少しずつ積み上げられながら特色となっていくというものもありま
すし、今、現在特色というふうに問われれば小中一貫校、それが、
施設が一体型でやっているということ、これが大きな特徴だろうと
は思いますけども、その中で教育を進めながら、異学年交流と縦割
り活動による依存感情の育成といったところだとも言うこともでき
ます。

また、若桜の自然を活かして、一部の子どもたちではありますけ
ども、若桜と言えばスキー、そして、スキー競技への積極的な取組
みも、それも特色になっていくのではないかなというふうに考えて
おります。今年、7年生以上のクロスカントリースキーの練習です
けども、普通は7年生以上、いわゆる中学校がクロスカントリーや
っていますけども、それを見た6年生が興味を持って、一緒に練習
したいというようなことを始めました。それで、町の大会にも、今
年初めて6年生の子どもたちがクロスカントリーに出場するという
こと、そういうことが広がっていけば、1年生～6年生の若桜学園
はスキーで、クロスカントリーもやっているなというように、
特色になっていくんだらうと思います。文化面でも捉えればたくさ
んのことがあるとは思いますが、例えば、ご存知だと思います
けども、火曜日の日本海新聞をご覧になれば毎回のよう子ども
の俳句が載っていると思います。この間も7年生の俳句が載ってい
ましたけども、そういう俳句をやりながら感性を鍛えていくとか、表
現力を伸ばしていくというようなことを、こう小学校から中学校の
課程に向かって広めていけば、それが若桜学園の特色にもなってい
くんだらうと思っています。

また、外国語もそうなんですけれども、外国語活動というのは5、
6年生で行っています。7年生以上は中学校で英語というかたちで
教育課程は組まれていますけども、若桜学園の1年～4年生も外国
語の活動を取り入れています。実は、ALTといっしょに、年間10
時間～15時間程度の時間ですけども、外国語の活動を取り入れて
います。そう考えれば、1年生～9年生まで英語という中に子ども
たちが浸かりながら学習を進めているという、それも1つの文化面
で言えば英語ということを中心としながらやっている教育だと、特色
あるということが言えると思います。いずれにしましても、1年～
9年まで一貫して行える行事と活動がいろんなところで生まれてく

ると思います。若桜学園ならではの活動や若桜学園でしかできないような、そういう学習がきつと2年目を迎えた若桜学園では見られてくるのではないかなと思っています。ただ、若桜学園でやっている教育を、それをやっぱり開かなければならないと思っています。自分たちの中でやっているのではなくて、外に向けて若桜学園はこういうことをやっていますよという、そういう開かれた若桜学園でない、外には見てもらえないということになると思います。特色ある教育をするんですけれども、それを是非外に向けて、外からも若桜と言えば若桜学園一貫校、すごい学校やっているな、いい教育をやっているなということが、こう見えるようなことになってほしいなと思っています。

先程からも町長が申しましたけど、PRがっていうこと、子育て支援のPRがっていうこともありましたけども、やっぱり若桜学園にとっても外に開いて、外に向けたやっぱりPRをしていかなきゃならないのかなと思っています。いずれにしても、いろんな特色ある教育がされています。広めていきたいなと思っています。併せて、新年度はこの特色ある教育をということで、多額の経費を予算化していただいています。先生がたの知恵とアイデアを絞っていただいて、若桜学園がしっかりといい学校に、中身がこう充実していくようになっていくことを期待しているところです。

(岡本議長) 前住孝行議員。

(前住議員) はい。5年計画の3年目は創造期の1年目が終わったところということで、本当に1年目、歴史はないんですけど、本当1年目としては、本当にスタートをきっちり切られたのかなというふうに思っています。本当にそういった、若桜と言えばこれっていうような教育などがあって、それで、若桜で教育してもらいたいっていうふうに思う保護者がたくさんなるように、先程教育長がPRとか、開かれたものにしていくというふうに言っておられたので、そういう方に充実していただけたらというふうに思っています。ちょっとその特色ある教育にも関係すると思うんですけど、3つ目のことに入らせていただきます。前の若桜小学校からも、数年前から留学生と会話をするために鳥取大学に行く授業をされています。本当にグローバル社会になった今日では、外国語教育は大変重要になってきていますが、英語を中心にハングル語も取り入れて友好協定を交わしている平冒郡との交流に備えてはとは思いますが、所見を伺います。

(岡本議長) 答弁を求めます。高木教育長。

(高木教育長) はい。前住議員さんが仰せのとおり、平冒郡との交流に備えて子どもたちが韓国語に触れる機会、あるいは触れることっていうのはとても有意義なことだと認識をしております。韓国語で挨拶をしたり簡単な自己紹介ができたり、少しでもハングルが覚えられた

ら、そういうような時間を設定できるように若桜学園にも働きかけてみたいとは思っています。学園もその必要性をもう認識しているとは思いますが、何らかのかたちで、その計画の中に盛り込んでいただけるものだと思います。ただ、7年生以上につきましても6年生以下と同じ歩調で覚えて、そのハングルなんかも覚えていけるといいかなあと思いますけれども、5、6年生が学習してきましたのでそういう学習してきたこと、韓国の事情、教育の様子、子どもたちの様子やそういうものをポスターにしたり、あるいはパンフレットなんか授業中にして掲示したりすれば、きっと7年生以上にも韓国の方とそういうことが広まっていくんではないかなあと思います。とりあえず交流の5、6年生を中心にしながら、そういう韓国との交流の学習を活かしていけたらなあと思っています。そういうちょっとしたところから交流を進めることで学園全体に韓国の生活や文化が分かるようになって、国際交流、国際理解につながっていくんではないかと思っています。これから交流が始まりますので、このようなことを考えながら来年度若桜学園で韓国語に関するような活動をできたらなあというふうに思っております。

(岡本議長) 前住孝行議員。

(前住議員) はい。とてもよい答弁をしていただきまして、でも、たぶん現状としてはなかなか時間数っていうのが取りにくいというのも承知の上で、今質問させてもらっているんですけど、本当にそういつてしていただけたら本当にありがたいと思います。それで、私自身も主はあくまで教科である英語を外国語の中心で交流してもらったというふうに思っていました。それで、昨年7月の訪韓で行かせてもらったときに、ちょっと発言しようかどうか迷ったんですけど、持論としましては英語学習の発展として、それでお互いが英語の勉強を韓国の方もしていますし、日本の方も若桜の方もしていますので、そういった英語でなんかメールのやりとりをするとかというようなことだったら容易にできるのかなあというふうに思ったりしています。そういった英語の交流とかをしていけば、なんか友達、本当に仲の良い友達ができれば、また今度ちょっとハングル語も勉強してみようかなあと自主的に思ってくるような夢になるかもしれませんけど、そういったサイクルもできるんじゃないかなあというふうに思っています。

また、ちょっと私の知り合いの中でも、知り合いの中で聞いたんですけど、若桜学園の5年生の子と9年生の子にK-POPが好きで、その韓国の歌手の歌の意味もしっかり分かっていたり、歌えたりとかっていうような児童生徒もおられるようです。本当にそういった子もあるようですので全員っていうわけではなくて、そういった児童生徒を上手に引き出すようなかたちに

して、本当に友好的な交流が進むといいなあというふうに思っているところでは、若桜学園になって、何かこの間、聞いた話なんです、9年生の修学旅行が沖縄だというふうに聞きました。沖縄も平和学習等を勉強するにはとてもいいことなんですけど、こういうふうなことを進めていってもらって、平賀郡の方に修学旅行に行ってもいいのではないかなあというふうに考えて、持論です、と思っています。本当にそういったように教育っていうのは本当に限りがありませんので大変ですが、やりがいのあることだと思いますので、そういった面に対してもしっかき充実させていただけたらなあというふうに思っています。

では、これで質問は終わらせていただきます。ありがとうございました。